

ミズベリングの取り組みについて

平成29年6月28日

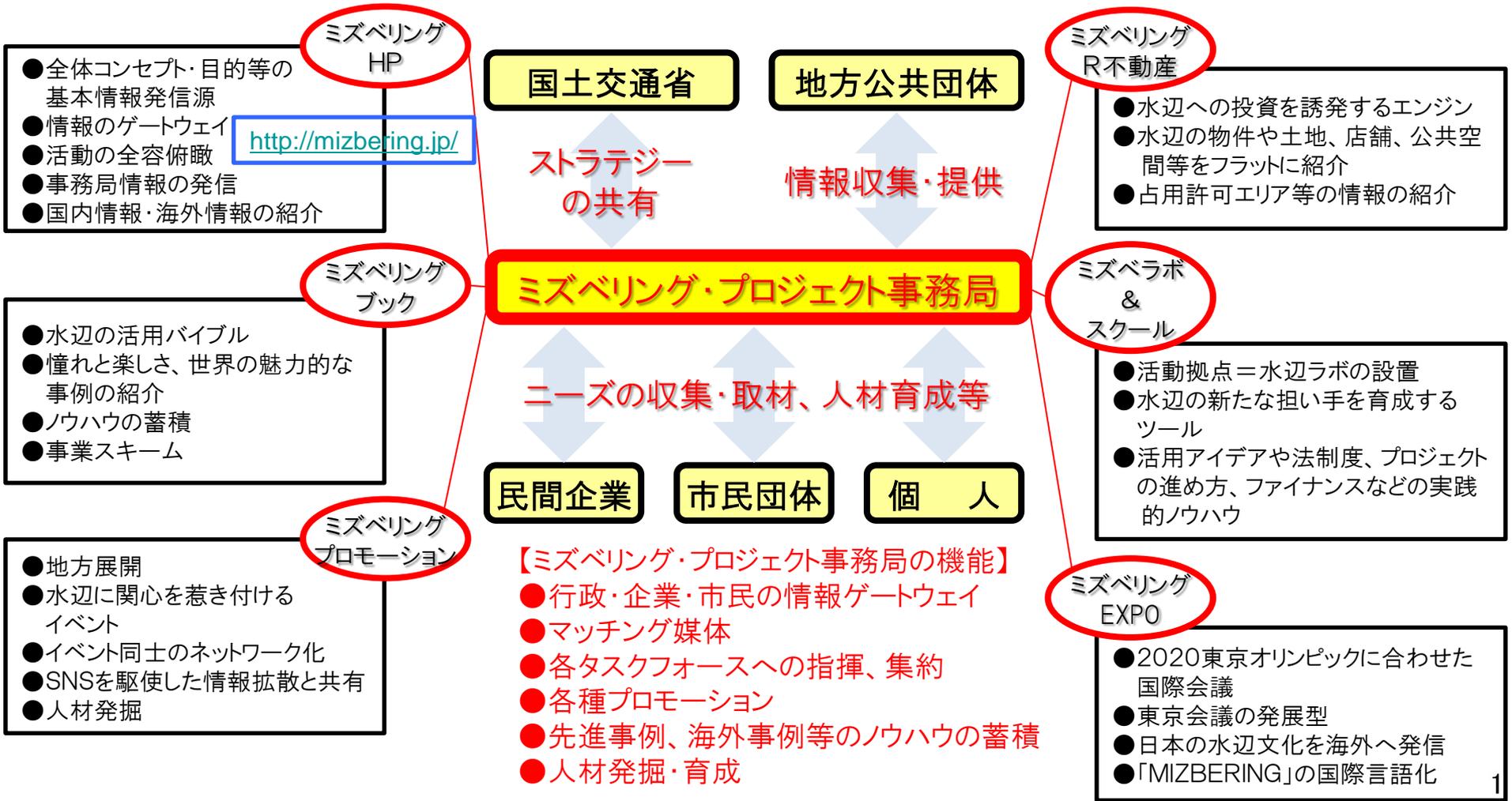
国土交通省北海道開発局

建設部 河川計画課

ミズベリング・プロジェクト

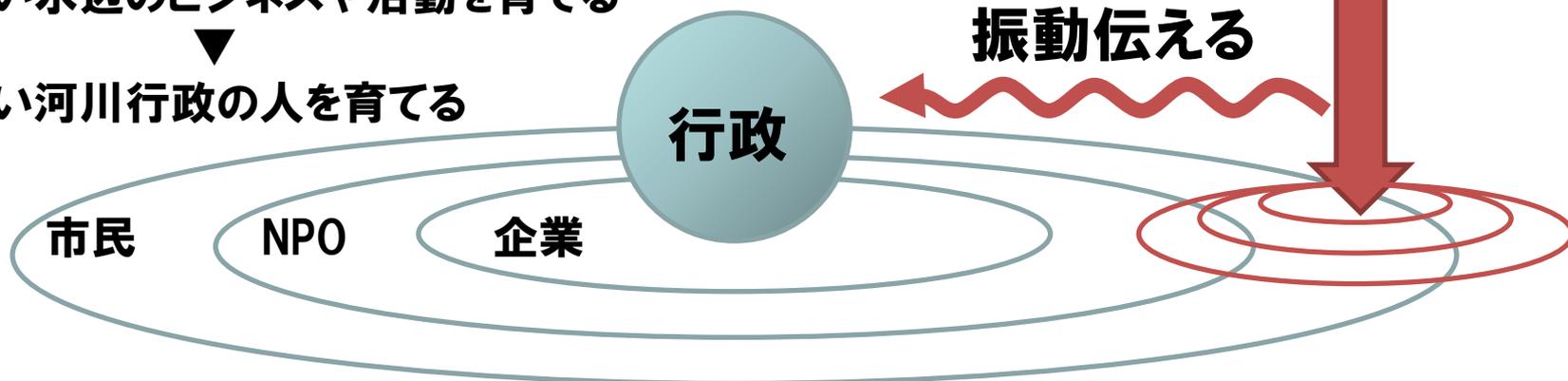


かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。



外から中に作戦

- ・水辺に新しい関心を集める
- ・水辺に新しいアイデアを育てる
- ・新しい水辺の関係を作る
- ・新しい水辺のビジネスや活動を育てる
- ・新しい河川行政の人を育てる



ここから始める (私が始める)

- ・水辺を楽しむ人
- ・水辺で街を変える人
- ・水辺で新しいビジネスを作る人 を増やす

市民団体 ・個人

- ・プロモーション
- ・先進事例等の情報提供
- ・ノウハウの提供

- ・相談
- ・人材提供
- ・情報提供

ストラテジー
の共有

国土交通省

ミズベリング・プロジェクト事務局

- 行政・企業・市民の情報ゲートウェイ
- マッチング媒体
- 各タスクフォースへの指揮、集約
- 各種プロモーション
- 先進事例、海外事例等のノウハウの蓄積
- 人材発掘・育成

- ・プロモーション
- ・先進事例等の情報提供
- ・ノウハウの提供

- ・占用許可
- ・共同参画
- ・情報提供、収集

民間企業 ・投資家

- ・相談
- ・資金提供
- ・情報提供

- ・制度・利活用方策
の提案
- ・情報提供

行政 ・施設管理者

ミズベリングとサイクルツーリズムの連携を図り、新しい賑わいを生み出すムーブメントを起こしていきます。

魅力ある水辺空間の創造（ミズベリング札幌）

「世界の北海道」を目指して
豊平川の現状

- 豊平川河川敷は高度に公園利用されている。
- 住宅やマンションが近接しており、臭いや騒音に対しても敏感である。
- ゴミの不法投棄が多い。
- 火の使用が許可されている場所は、市街地から遠い一部の公園のみ。

◆ 札幌市の中心を流れる豊平川は、高水敷が高度に公園利用されているが、花火大会やイカダ下り等のイベントが減少し、市民が川にふれあう機会も減少。

◆ 地下鉄駅から徒歩5分という利便性と、開放的な空間をもっと活用するため、「都市・地域再生等利用区域」指定を目指して活動している。

■ ミズベリング札幌スタートアップ会議 H27.3.1(日)

札幌の水辺の未来像に関する議論がスタート。



河川敷利用に関する主な意見

- 市街地の近くでバーベキューをやってみたい。
- 正しい火の使い方や、ゴミの持ち帰り等、マナーを学ぶ場にもしたい。

■ 河川清掃 + α H27.10.3(土)

NPO法人グリーンバードと共同で豊平川河川清掃+カレーを食べる会を試行。豊平川の現状を再確認するとともに、もっと何かやりたい！という思いが高まる。



■ MIZUBE day SAPPORO - サッカーと音楽を楽しむ日 - H28.10.8(土)

繁華街近傍の水辺（豊平川 南大橋下流左岸）でサッカーと音楽をテーマとしたイベントを初開催。北海道ゆかりのアーティストによるライブと、現役選手による子どもサッカー教室も同時開催し、大人も子供も一緒に、水辺で過ごす時間を楽しめるイベントとなった。



ライブはA.F.R.O.が無償で提供したテーマソングを合唱。
「マナーと風景を守れば 僕らの世代 その下の世代から 創り出す未来はもっと明るい」(歌詞より)

魅力ある水辺空間の創造（ミズベリング江別）

◆江別市は、北海道開拓期に石狩川・千歳川の舟運で栄えたまちですが、今では川から遠ざかった生活となってしまいました。千歳川のほとりにある多目的スペース「銀のしずく」を拠点とし、江別の魅力を再発見し、川のある暮らしを楽しむ「ミズベリング江別」の活動が行われています。

「世界の北海道」を目指して
(千歳川が貫く江別市街)



■第1回ミーティング H27.9.4(金)

アイデアがどんどん巻物になる！

まずはやってみよう！と、

<実験> 水辺に本屋 H27.9.26 (土)

「北海道ブックフェス2015：江別ワンデイブックス」
とのコラボ企画で、「水辺に本屋」をつくってみました。



水辺でミーティングしたり、お食事したり
お酒を飲んだりする水辺部？
川クラブ？よくわからないけど、
一緒に川ろうよ江別！
(声かけ人 堀直人氏のFacebookより)



<実験> 江別のレンガでピザ会 H28.7.9 (土)

北海道遺産でもある江別のレンガと江別産小麦で
ピザパーティー！読書しつつ焼き上がりを待ちます。

■江別リバーサイド・ワークショップ H28.8.21 (日)

江別河川防災ステーションの敷地で開催された「江別リバーサイド・フェスティバル」
の会場でワークショップを同時開催。訪れた皆さんと一緒に水辺の未来を描きました。



魅力ある水辺空間の創造（ミズベリング石狩川）

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

■ミズベリング石狩川

～石狩川流域圏の魅力を活かせる川の指導者を育成する H28.9.10(土)

NPO法人 まち・川づくりサポートセンター（滝川市）の主催で、「ミズベリング石狩川」が初めて開催された。石狩川流域が持つ経済価値・環境共生・人づくりの創造に向けて、異業種間の情報交換を行い、未来に向けた石狩川流域のエリアマネジメントや、それをコーディネートする新たな指導者の育成について議論が行われた。

2日目のH28.9.11（日）は石狩川の指導者養成講座として、石狩川沿いをマウンテンバイク・カーナーで移動し、流域の魅力を再確認しながら、川を通じたエリアマネジメントについて学んだ。



ワークショップでは、グループに分かれ、水辺への思いや未来像を語り合った。



フットパス活動を行っている市民団体や空知の炭鉱の記憶を伝える活動を行っているNPO、アウトドアプログラムを提供する会社、ツアー旅行会社、環境教育を実践しているNPO・・・等様々な視点から情報提供が行われた。

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

○事業概要

ソフト対策

- ・民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度等を活用
- ・河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援

ハード支援

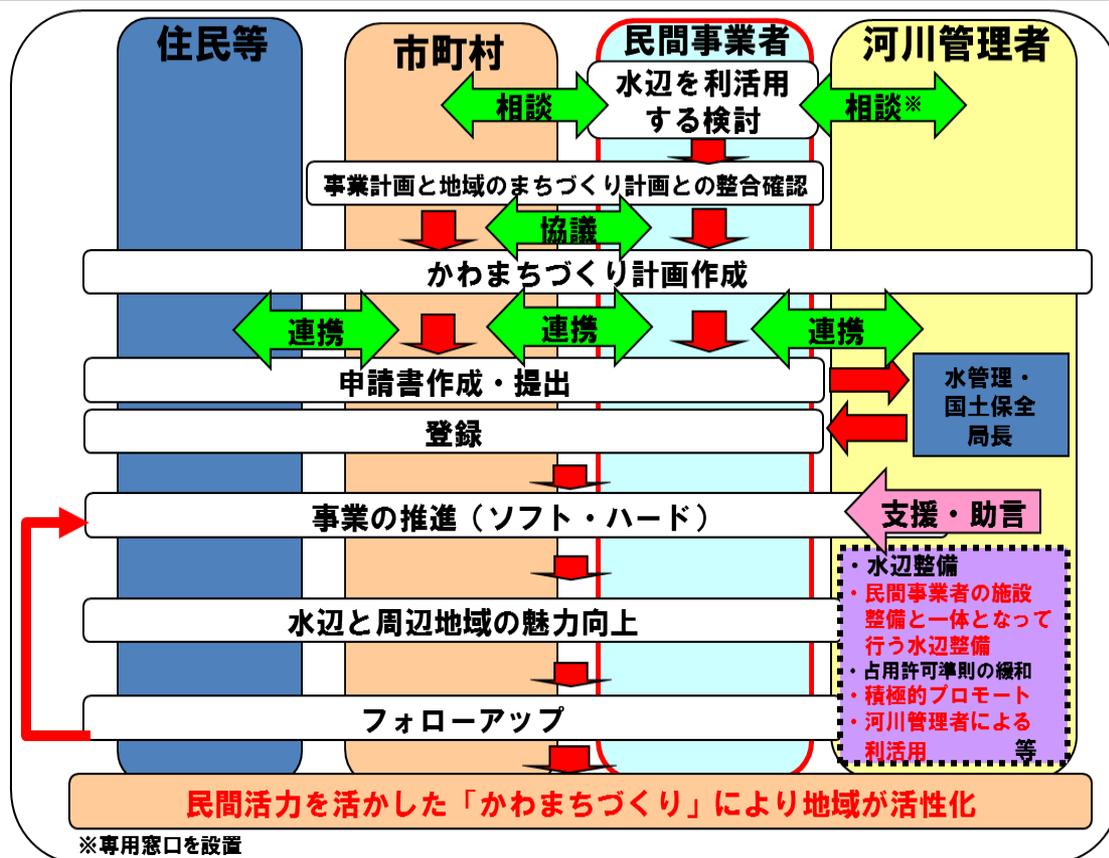
- ・まちづくりと一体となった水辺整備を積極的に支援



最上川/長井市



管理用通路をフットパスとして活用
(最上川)



【登録の条件】 ※169地区登録（平成28年度末日時点）

- ①地域の創意としての「知恵」を活かした計画を対象
- ②利活用方策が地域において明確となっているものを対象
- ③施設の維持管理に地域の協力が得られるものを対象

- ・昨年3月に閣議決定された北海道総合開発計画では、「食」と「観光」を戦略的産業として位置づけ、世界の北海道を目指すこととしています。
- ・河川を活かした賑わいの形成と活力あるまちづくりを支援するため、「かわまちづくり支援制度」を推進してまいります。
- ・道内では、現在12箇所が支援制度に登録されており、河川を活かしたフットパスの整備や堤防を利用したサイクリングロードの整備などを進めています。

平成29年6月時点の登録箇所数 計 12 箇所

北海道開発局
管理区間 7 箇所
北海道
管理区間 5 箇所

旭川市かわまちづくり (旭川市)

- ・石狩川、忠別川の河川空間を活用して、オープンカフェや文化芸術施設と連携を図っていきます。



平成21年5月22日登録

天塩かわまちづくり (天塩町)

- ・天塩川を活用したフットパスや野鳥観察など、地域の観光振興・活性化に取り組んでいます。



平成27年3月30日登録

雄武町市街かわまちづくり (雄武町)
平成24年12月17日登録

名寄川かわまちづくり (名寄市・下川町)

- ・名寄川の河川空間などをサイクリングなどに活用し、両市街地間や観光拠点間の周遊性の向上を図っていきます。

平成29年3月7日登録



美瑛川かわまちづくり (美瑛町)

- ・美瑛川の河川空間を利用したサイクルツーリズム等に取り組んでいます。



平成26年3月26日登録

平取町かわまちづくり (平取町)

- ・イオル再生事業と連携し、沙流川でアイヌの人々が行っていた植栽の場の創出やフットパスに取り組んでいます。

平成21年5月22日登録
平成28年3月28日変更



網走かわまちづくり (網走市)

- ・網走川沿いの観光施設や交流施設をつなげ、網走観光の魅力を高め地域活性化を図っていきます。

平成28年3月28日登録



北見市東部かわまちづくり (北見市)
平成22年9月24日登録

弟子屈かわまちづくり (弟子屈町)

- ・市街中心を流れる釧路川を活用して、親水広場の整備等に取り組んでいます。

平成24年2月15日登録



天神外かわまちづくり (小樽市)
平成21年5月22日登録

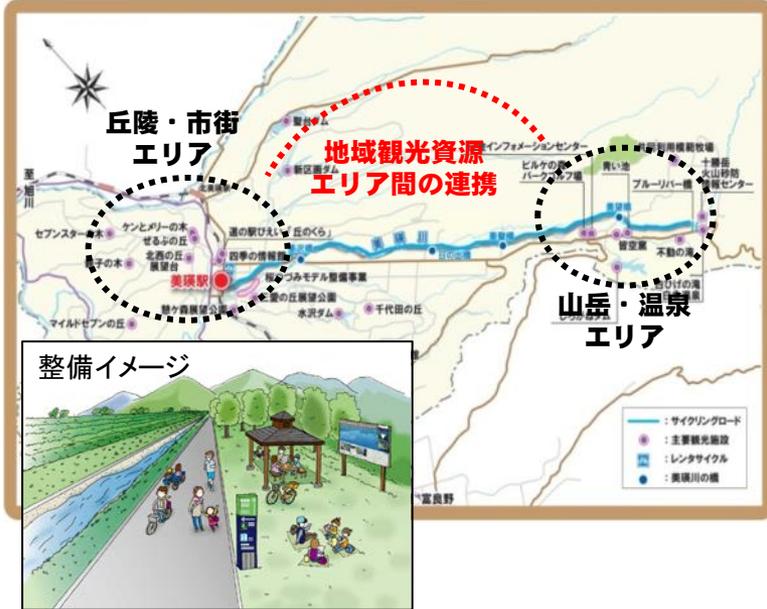
大沼公園広場かわまちづくり (七飯町)
平成21年5月22日登録

浦幌町市街地かわまちづくり (浦幌町)
平成21年5月22日登録



美瑛川地区かわまちづくり

- 近年、世界的に有名となった白金地区に隣接する「**青い池**」には、春から秋にかけて大勢の観光客が訪れています。また、美瑛町では、平成21年度から「美瑛センチュリーライド」を実施し、**サイクルツーリズムの普及・振興**につとめており、自転車を利用して近隣の観光資源にアクセスする観光客も増加しています。



当該箇所の整備によって、サイクルステーションで自転車を借りたりメンテナンスができるようになるとともに、案内看板の設置やサイクリングロード周辺に車を止められるようになる等、サイクリングを楽しむ観光客が利用しやすくなり、**新たな地域資源の創出、自転車や歩行者の安全性向上、観光客の増加等による地域振興が期待される。**

賑わい創出に向けた議論

道内や地元のサイクリスト、沿川カフェ経営者等と意見交換を行ったり、現地での試走を通して、沿川の店舗と連携した賑わい創出に向けた取組などを議論しています。



社会実験

周辺16施設にサイクルラックなどを設置しその有効性、必要性に関する社会実験を実施。自転車がお店を利用しやすいなどの好意的な意見が多く、利用者の増加が期待される結果でした。



旧川復元を実施した茅沼地区では、新しいカヌーコースとしての利用や環境学習の場等として活用されており、管理用通路(木道)は、旧川復元箇所の見学や散策等に利用されています。

- 開催日：
平成28年7月10日(日)
- 参加者の内容：
釧路市ほか一般市民
主催：釧路国際ウェットランドセンター
- 実施内容：
・旧川復元茅沼地区の実施内容の説明
・水生生物、砂州および植生調査



- 開催日：
平成27年9月30日(金)
- 参加者の内容：
釧路市ほか一般市民
主催：旧川復元小委員会
- 実施内容：
・旧川復元茅沼地区の実施内容の説明
・Eボート体験



- 開催日：
平成28年8月4(木)
- 参加者の内容：
上智大学フィールド調査
- 実施内容：
・旧川復元効果の説明



管理用通路(木道)の整備により、より見学しやすく！



幌向地区自然再生の活動

石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップメンバーに所属する「NPO法人 ふらっと南幌」は、夕張川や幌向運河沿川などをフットパスとして活用しており、毎月「月例フットパス」を実施している。



● 湿生植物の再生・保全・活用

ほろむい七草の一つであるホロムイイチゴは、ノルウェーなどで伝統的に料理（鹿肉料理のソースやジャムなど）や薬品（ハンドクリームなど）に利用されており、活用が期待できる。



ホロムイイチゴ



幌向地区に残存する高位泥炭（手前左の上段）



フットパスコースの一例

● ぐるっと南幌River（一周43km）

石狩川、千歳川、旧夕張川の堤防に囲まれた南幌町の地形を活かした長距離コース



幌向地区
自然再生箇所

夕張川

南幌リバー
サイド公園

幌向運河
南幌温泉
ふるさと物
産館

旧夕張川

274

337



NPOふらっと南幌
フットパスコース図

高層湿原の基盤となるオオミズゴケは、コショウラン等の高級蘭栽培用の園芸資材として有用。ふらっと南幌では、オオミズゴケの栽培実験にも取り組んでいる。



故 辻井達一先生とともに、勉強会や幌向地区の現地視察なども実施。



フロート式栽培実験